**菊岡　久利 （きくおか・くり）**

**１、プロフィール**

詩人、小説家。初め無政府主義詩人として登場、同系誌に活躍、やがて有力同人誌の編集に携わってゆく。戦後「日本未来派」を創刊。小説、絵などにも活躍。

＜生没＞

1909（明治42）年３月８日 ～ 1970（昭和45）年４月22日

＜代表作＞

詩集『貧時交』

戯曲集『野鴨は野鴨』

小説『怖るべき子供たち』

＜青森との関わり＞

弘前市生まれ。父は高木寿造、代々津軽藩の重臣の家系。

**２、作家解説**

本名は高木陸奥男（みちのくお）。筆名は横光利一の命名（菊池寛、岡鬼太郎、久米正雄、横光利一からそれぞれ一字を採る）と言われる。別号鷹樹寿之介。

母の実家のある秋田の小学校に入学。小学校卒業後上京、海城中学校に入学するが、二年で中退。この間、「日本詩人」の新人特集号に千家元麿選で二位に当選（一位は黄瀛（こうえい））。黄、尾崎喜八、宮崎丈二らと、詩誌「海」を出版。

大正14年秋田に帰り小坂鉱山の大争議に関係、また、「秋田魁新聞」、地元同人誌に詩を発表する。

「黒色戦線」廃刊の後に創刊された「弾道」に農本思想批判論(昭和５年11月)を書き､昭和10年「詩行動」で詩作を再開し､詩誌「反対」を岡本潤とで主宰し､詩を発表｡

11年武田鱗太郎主宰の「人民文庫」に詩を発表。

13年本庄陸男らの「槐（えんじゅ）」に同人となり詩、評論にも活躍。

15年「槐」が改題「現代文学」となり、引き続き同人、かつ大井広助、平野謙らとともに編集を担当、詩（17篇）、小説、時評などを発表。「歴程」参加もこの頃。

詩集『貧時交』（昭和11年）は日本無政府共産党事件の被疑者とし留置中、第一書房主長谷川らの援助によるものであった｡13年詩集『時の玩具』､15年『見える天使』､戯曲集『野鴨は野鴨』を出版。

戦時中、アナーキズムから民族主義に転向し頭山秀三門下となる。

戦後、22年高見順、池田克巳らと「日本未来派」を創刊。24年小説集『怖るべき子供たち』、27年同『銀座八丁』、31年同『ノンコのころ』を出版。

晩年、大映の企画部、文化学院講師、二科会会員など、多くの団体に関係した。

**３、資料紹介**

〇『詩集貧時交』

図書

1936（昭和11）年１月20日

195mm×135mm

昭和11年１月20日東京都麹町区第一書房より刊行された。詩29篇（貧時交、寒鴉、「悪者の詩」より、孤と群と、何鳥、木蔦、北、野猫、たそがれ等）を収める。横光利一の序文、新居格の跋文、著者ノートが見える。